

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	37	大学等名	福岡医療短期大学
テーマ	テーマⅠ・Ⅱ複合型		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、医療・福祉系の専門人材養成機関として行う、職業実践教育の成果を可視化する工夫を行っている。密な短期大学のカリキュラムの中において、アクティブ・ラーニングを初年次導入教育、インターンシップ前教育、インターンシップ教育の3つに取りまとめ、確実にアクティブ・ラーニングを導入している。また、インターンシップ先施設指導者の意見や学生の就職先企業からの意見を踏まえて「専門職としての汎用的能力」となるコンピテンシーの可視化を実施している点は、大学と社会の連携を具体的に進めている例として評価できる。しかし、これらの取組と成果を基にしたディプロマ・サプリメントへの発展が予定されているものの、その具体的内容が明確であるとは言えないことから、引き続きより具体的な取組の実施に努めることが望まれる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、学修成果の可視化を推進するツールとしてルーブリックの普及に努め、学修成果の可視化が組織的に行われている。また、学生調査も導入し、学生たちの学びの現状を間接評価として可視化していることに加え、直接評価としてアセスメントテストを実施し、それを分析するとともに、学修支援につなげていることも評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、補助期間終了後も事業を継続するために、平成29年度に既に事業実施体制の見直しが行われており、実施主体である「就業力支援委員会」を核とし、既存の「教育支援・教学IR委員会」及び「学務・FD委員会」の2つの委員会と連携することでPDCAサイクルを意識した実施体制を構築している。また、外部評価委員会は解散するが、引き続き、インターンシップ先企業や学生の就職先企業、卒業生からの意見や評価を受ける機会を模索するとともに、大学間連携による共同FD・SDが継続的に行われることも評価できる。

事業成果の普及については、アクティブ・ラーニングによる資質・能力の育成と、その成果をルーブリックによって学修成果を把握することを基盤とする教育の在り方は、医療・福祉系の専門人材養成機関においてモデルになり得るカリキュラムの在り方である。今後、更に積極的な情報発信により、成果の普及に努めることが望まれる。